

U.S. Indicators

発表日: 2025 年 2 月 26 日(水)

米国 25 年入り後の消費鈍化を示唆(2 月 CB 消費者信頼)

～トランプ関税等による懸念の強まりで期待指数が大幅低下～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel: 050-5474-7493)

25 年 2 月の C B 消費者信頼感指数は、98.3(前月 105.3 : 改定前 104.1) と前月比▲7.0 ポイント低下し、市場予想中央値の 102.5 を下回った。現状指数が 136.5 (前月 139.9 : 改定前 134.3) と前月比▲3.4 ポイント低下したほか、期待指数が 72.9 (前月 82.2 : 改定前 83.9) と同▲9.3 ポイント低下した。2 月の C B 消費者信頼感指数では、将来に関して、トランプ関税によるインフレ押し上げ懸念や景気悪化懸念を高めたことを背景に、消費者が景気や雇用に悲観的な見方を強めたうえ、収入への楽観的な見方を弱めるなど、全体として 25 年入り後の個人消費の減速を示唆している。

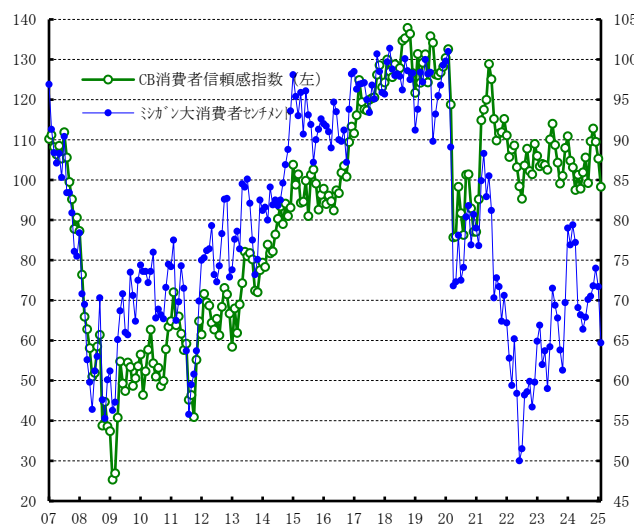
現状指数の構成項目では、「景気」がプラス幅を拡大したが、「雇用」がプラス幅を縮小した。現在の景気に対する判断(「良い」-「悪い」)が+3.9(前月+3.3 : 改定前+3.0)とプラス幅を拡大、現在の景気に対する楽観的な見方を強めた。一方、現在の雇用機会に対する判断(「充分」-「困難」)は+17.1(前月+19.4 : 改定前+16.2)とプラス幅を縮小しており、現在の労働市場に対する楽観的な見方が弱まった。

期待指数の構成項目では、「収入」がプラス幅を縮小した他、「景気」がマイナスに転じ、「雇用」がマイナス幅を拡大した。6 ヶ月後の収入に対する見方(「増加する」-「減少する」)は、+4.5(前月+5.8 : 改定前+6.9)とプラス幅を縮小し、収入に対する楽観的な見方を弱めた。また、6 ヶ月後の景気に対する見方(「良くなる」-「悪くなる」)は、▲6.5(前月+1.2 : 改定前+2.2)とマイナスに転じ、景気の先行きに対して悲観的な見方となった。さらに、6 ヶ月後の雇用に対する見方(「多くなる」-「少なくなる」)は▲7.5(前月▲1.9 : 改定前▲0.9)とマイナス幅を拡大、雇用の先行きに対する悲観的な見方を強めた。

消費者信頼感 (Consumer Confidence)

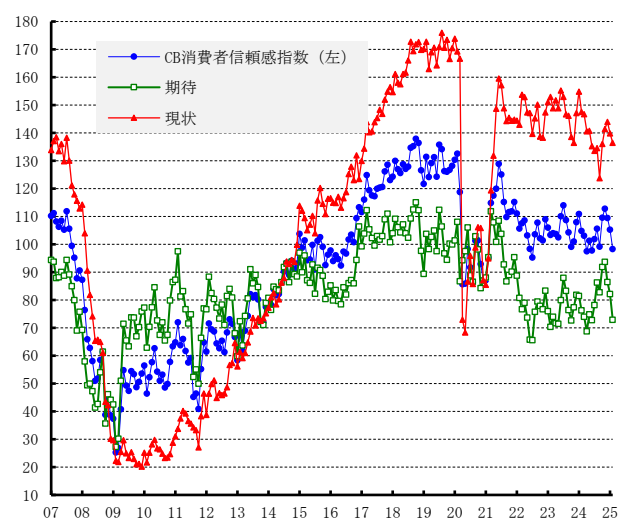
	消費者信頼感指数										ミシガン大学消費マインド [※]		
		期待指数	現状指数	雇用判断		半年後の景況感		半年以内の購入計画			期待	現状	
				充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅				
24/02	104.8	76.3	147.6	42.8	12.7	14.0	16.9	10.8	4.6	76.9	75.2	79.4	
24/03	103.1	74.0	146.8	41.7	12.2	14.3	18.5	11.4	5.2	79.4	77.4	82.5	
24/04	97.5	68.8	140.6	38.4	15.5	13.4	19.1	11.5	5.2	77.2	76.0	79.0	
24/05	101.3	74.9	140.8	37.0	14.3	13.7	16.9	12.2	5.2	69.1	68.8	69.6	
24/06	97.8	72.8	135.3	35.5	15.7	13.2	17.6	11.1	5.1	68.2	69.6	65.9	
24/07	101.9	78.2	133.6	34.1	16.0	14.8	16.7	10.5	4.2	66.4	68.8	62.7	
24/08	105.6	86.3	134.6	32.7	16.8	19.1	14.5	11.5	4.8	67.9	72.1	61.3	
24/09	99.2	82.8	123.8	31.3	18.6	19.4	17.1	11.9	5.8	70.1	74.4	63.3	
24/10	109.6	91.9	136.1	34.1	17.6	21.1	13.0	13.1	6.1	70.5	74.1	64.9	
24/11	112.8	93.7	141.4	33.6	15.2	24.7	15.9	13.1	6.2	71.8	76.9	63.9	
24/12	109.5	86.5	144.0	37.1	14.9	22.7	17.3	13.1	5.7	74.0	73.3	75.1	
25/01	105.3	82.2	139.9	33.9	14.5	20.8	19.6	11.4	5.0	71.7	69.5	75.1	
25/02	98.3	72.9	136.5	33.4	16.3	20.2	26.7	11.1	5.6	64.7	64.0	65.7	

(図表)消費者マインドの動向(月次)



(出所) C B、ミシガン大学

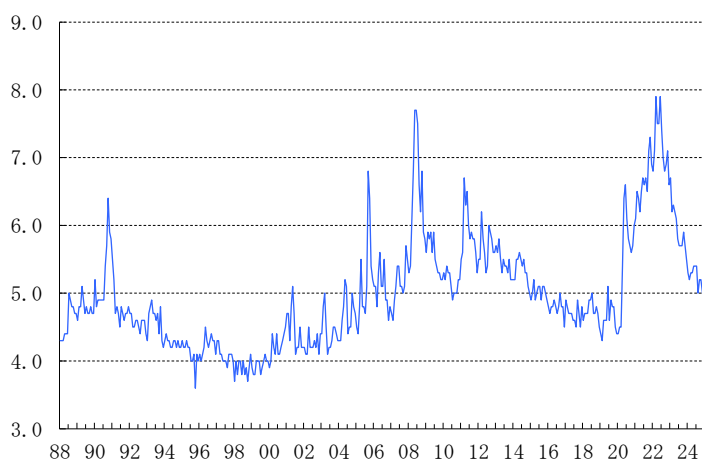
(図表)消費者マインドの動向(月次)



(出所) C B

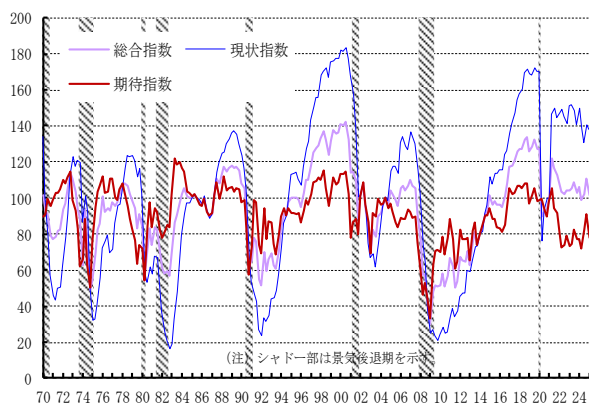
インフレに関しては、トランプ関税への懸念や悪天候等を受け、1年先のインフレ見通しが6.0% (前月5.2%)と急上昇し、インフレへの懸念を強めている。

(%) 12ヵ月後のインフレ見通し

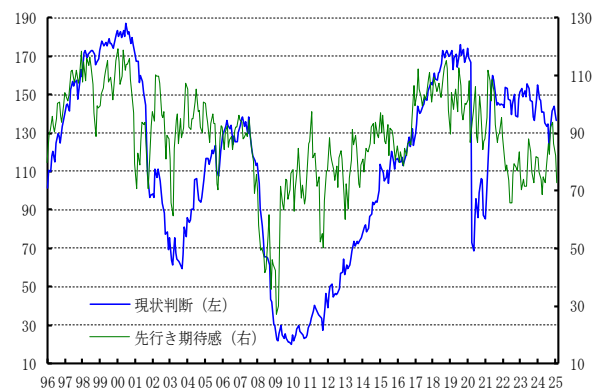


25年前半のC B消費者信頼感調査では、高い政策金利や締まった信用状況、高い物価等が押し下げ要因となるものの、良好な雇用情勢や所得の増加等が押し上げ要因となり、現状指数は小幅上昇すると見込まれる。一方、トランプ関税によるインフレや景気への懸念が残存すると予想され、期待指数は小幅低下する可能性が高い。この結果、C B消費者信頼感指数は100程度で推移し、個人消費の緩やかな拡大の一因になると予想される。

消費者信頼感指数の推移(四半期)

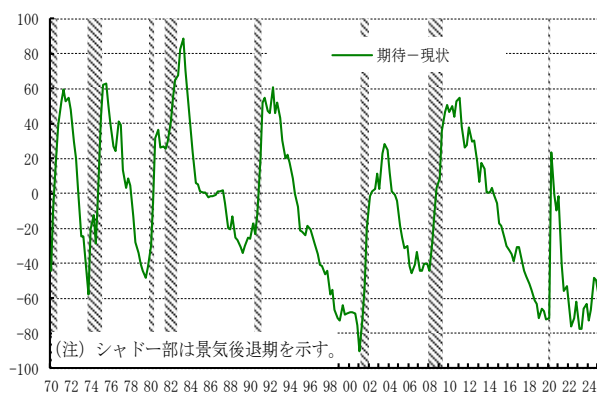


消費者信頼感指数の推移



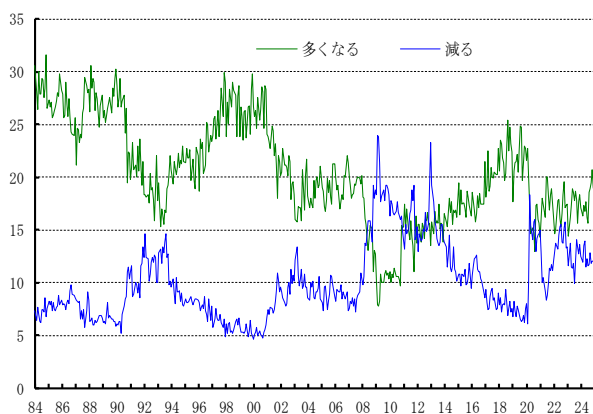
(出所) C B

(期待指数－現状指数)の推移

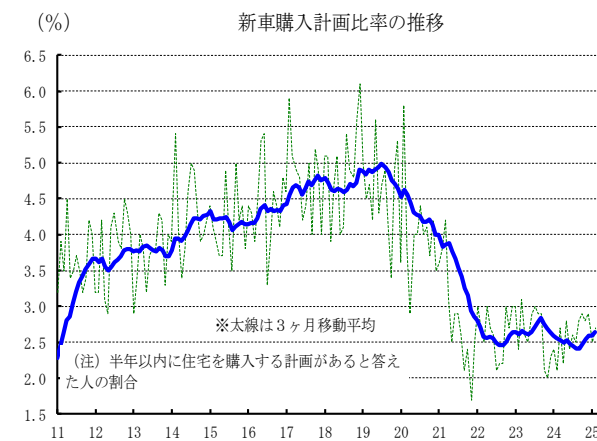


(%)

6ヶ月後の収入見通し

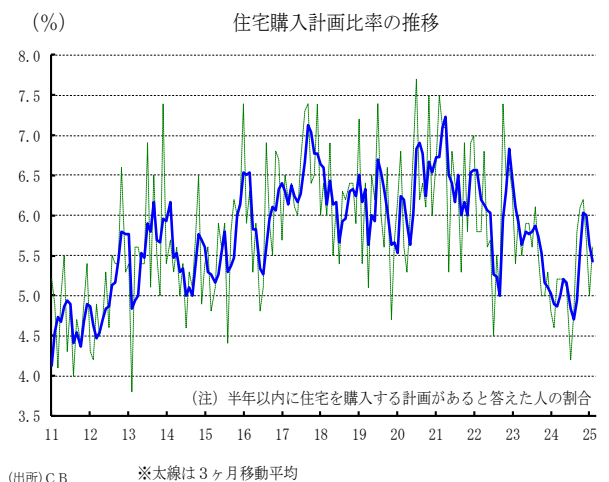


新車購入計画比率の推移



(出所) C B

住宅購入計画比率の推移



(出所) C B

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

